

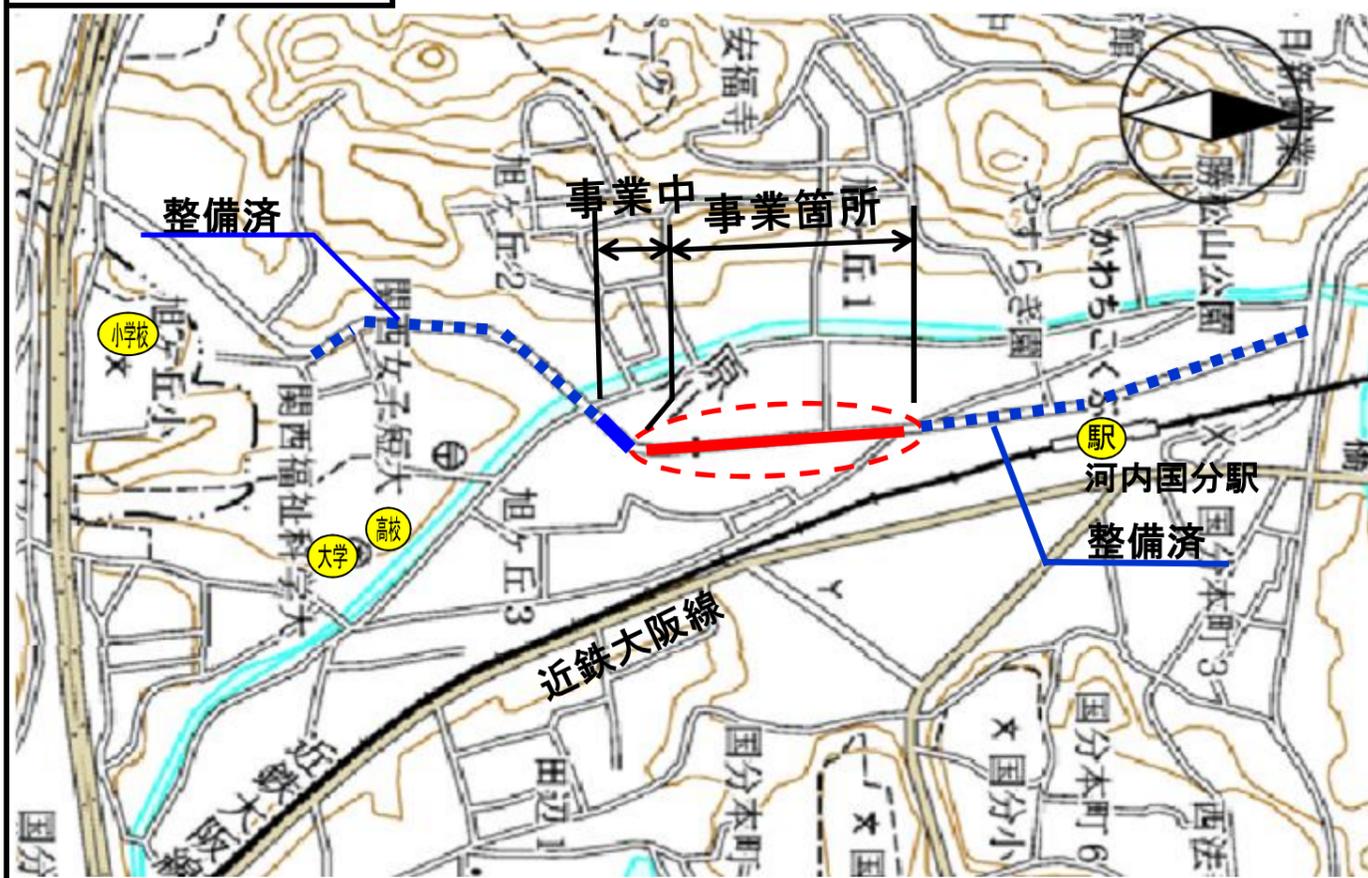
平成 26 年度 事前評価点検表（内部評価）

事業名	主要地方道 柏原駒ヶ谷千早赤阪線 歩道整備事業	
担当部署	都市整備部 交通道路室 道路環境課 交通安全施設グループ（連絡先 06-6944-9283）	
事業箇所	柏原市国分	
目的	本路線は、河内国分駅周辺バリアフリー基本構想において、河内国分駅から高校、大学や商業施設を結ぶ特定道路に指定され、本事業区間の前後区間では歩道整備を行ってきたところであるが、本区間には歩道が未整備であるため、駅から主要施設へ向かう歩行者、自転車が多いにも関わらず交通安全上危険な状態である。このため、歩道の整備を行うことで歩行者等の安全と交通の利便性の向上を図ることを目的とする事業である。	
内容	歩道整備 延長：L=320m (現況) 幅員：W=8.0m 歩道なし (計画) 幅員：W=16.0m 両側歩道 W=3.5m×2	
事業費	全体事業費：約 9.0 億円 (内訳) 調査費等 約 0.5 億円 用地費 約 7.1 億円 工事費 約 1.4 億円	
	【事業費の積算根拠】 予備設計から数量を算出。事業費は積み上げにより算出。	【工事費の内訳】 歩道整備等 約 1.4 億円
事業費の変動要因	【今後の事業費変動要因の予測】 用地補償費の算定については、概算額で計上しており、今後、詳細な調査により確定することから、事業費が変動する可能性がある。	
維持管理費	5.0 百万円/年・k m	
関連事業	都市計画道路田辺旭ヶ丘線整備事業	
上位計画等における位置付け	大阪府都市整備中期計画（案）(H24.3) 柏原市交通バリアフリー基本構想 (H15.3)	
優先度	本事業箇所は、柏原市交通バリアフリー基本構想の特定道路に位置付けられた道路であり、歩行者、自転車利用者も多いことから、優先的に整備していく必要がある。	
事業を巡る社会経済情勢等	○当該道路状況 当該事業箇所は、河内国分駅と関西福祉科学大学などを結ぶ経路であり、歩行者、自転車の利用も多く、特に朝夕は通勤・通学の多い箇所であるが、歩道がなく歩行者等にとって大変危険な状況である。 ○現況交通量（平成 22 年度 道路交通センサス、歩行者・自転車は平成 26 年 12 月調査） 自動車交通量 : 4,527 台/12h 歩行者交通量 : 3,190 人/12h 自転車交通量 : 1,714 台/12h 動力付き二輪車類 : 348 台/日 ○交通事故発生状況（当該箇所近傍） H22～H25（4ヶ年間） : 9 件	

地元の協力体制等	都市計画道路田辺旭ヶ丘線の整備（柏原市施工）
事業の投資効果 <費用便益分析> または <代替指標>	交通安全事業における費用便益分析手法は確立されていない。
事業効果の 定性的分析 (安心・安全、活力、 快適性等の有効性)	【効果項目】 <安全・安心> ・歩車分離を図ることにより、歩行者・自転車等の安全を確保する。 ・周辺に高校、大学、商業施設があり、利用者の安全確保に寄与する。 <活力> ・誰もが安心して社会参加できる生活空間の形成（バリアフリー化の推進・歩行者交通等の利便性向上） <快適性> ・歩道の整備による、歩行者等の通行利便性の向上 【受益者】 沿道住民、道路利用者
事業段階ごとの 進捗予定と効果	平成 27 年度：協議・設計 平成 28～31 年度：用地買収 平成 32～33 年度：用地買収、工事
完成予定年度	平成 33 年度
代替手法との 比較検討	歩行者等の安全を確保するためには、通行車両と歩行者等を物理的に分離できる歩道整備を行うことが最善策であり代替案はない。
自然環境等への 影響とその対策	周辺は市街地が形成されており、本事業において新たに自然環境に影響をあたえることはない。
その他特記事項	特になし
評価結果 (案)	事業実施 <判断の理由> 本箇所は、河内国分駅周辺バリアフリー基本構想において、河内国分駅から高校、大学や商業施設を結ぶ特定道路に指定され、特に朝夕は駅を利用する歩行者、自転車が多いにも関わらず歩道が無く、交通安全上危険な状況である。このため、歩道の整備を行うことで誰もが安全・安心・快適に通行できる歩行空間が確保できることから「事業実施」とする。

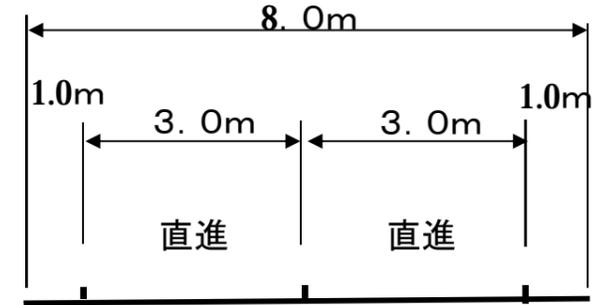
平成26年度 事前評価 (主要地方道 柏原駒ヶ谷千早赤阪線(歩道整備))

事業箇所図

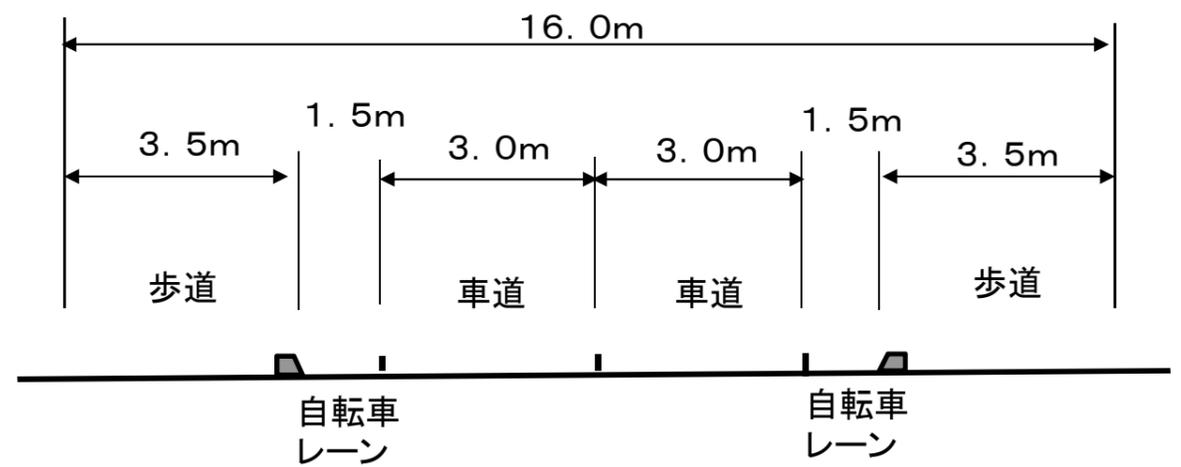


標準断面図

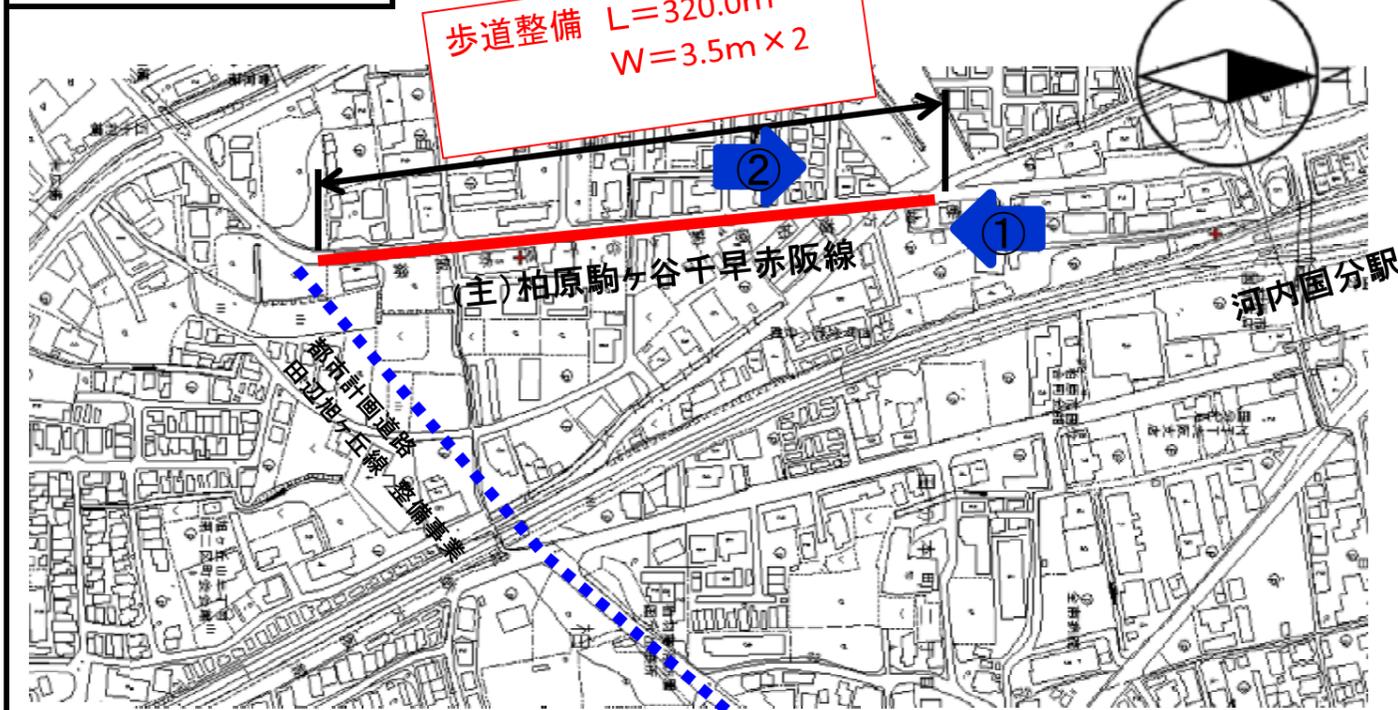
(整備前)



(整備後)



平面図



現況写真

①



②

